
自動運転試験に対応したシャシダイナモメータの販売を開始

- 業界初となる実車実証試験を完了し、最先端のAD/ADAS開発試験を提供可能 -

東芝三菱電機産業システム株式会社(以下、TMEIC)(社長:山脇 雅彦)は、業界初となる実車を用いた「自動運転/先進運転支援システム(以下、AD/ADAS)試験対応シャシダイナモメータ」の実証試験を完了し、6月より販売を開始しました。

自動車産業では、AD/ADASを搭載した自動車の開発競争が加速しています。特に条件付きで自動運転となるレベル3*1以上の高度な自動運転技術の開発競争が加速する中、実際の走行を想定した、実車による走行試験の環境整備が課題でした。「シャシダイナモメータ」は、ローラ上に実車を走らせることにより走行模擬試験ができる装置で、従来は直進走行のみの性能検証が可能でしたがステアリング操作への追従対応には未対応でした。また、AD/ADASに対応するためには、車両の動きや周囲の環境を測定する多種多様なセンサーを搭載する必要があり、これらのセンサーに干渉しない設備のニーズが高まっていました。

TMEICはこうしたニーズを踏まえ、AD/ADAS試験に対応する新しいシャシダイナモメータを開発しました。本製品は、ステアリング操作に追従して前輪部分に埋設されたローラが旋回する構造を持つことでステアリング操作試験に対応、また、ピット上を各種センサー類への影響を最小限に留めた設備配置とすることでセンサー類への干渉を回避し、高度なAD/ADASの走行模擬試験環境を実現しました。TMEICは、40年を超える実績と経験を活かして、あらゆるシチュエーションを想定した実車での実証試験を行い、十分な信頼性と安全性を確認しております。

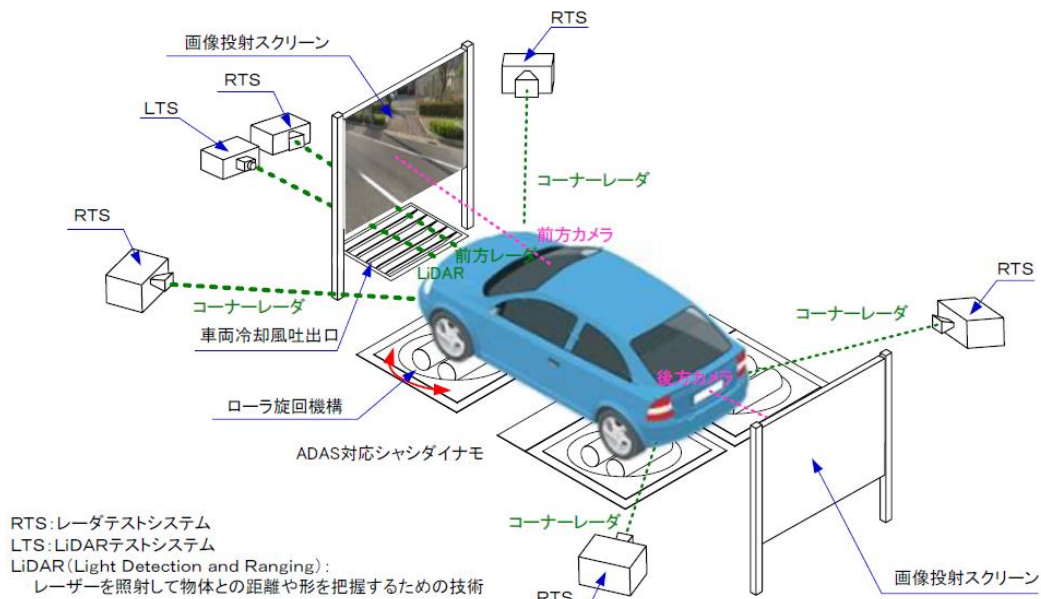
執行役員 産業第三システム事業部長 澤田 尚正 コメント:

「CASE*2の時代に応じた新製品の販売を開始しました。今回は、実車を用いた実証試験を行うことにより、設備の信頼性と安全性をより向上させました。今後もお客様のニーズや技術革新に対応しつつ、自動運転技術の開発加速に貢献していきます。」

<当社内実車実証試験状況>



<AD/ADAS試験全体構成図>



*1 自動運転レベル:0~5 までの 6 段階で定義され、レベル 3 では、一定条件下での自動運転に対応。

*2 CASE: C (Connected: コネクテッド)、A (Autonomous: 自動運転)、S (Shared & Service: シェアリングとサービス)、E (Electric: 電動化)の頭文字をとった、自動車産業の将来の動向を示す造語。

<参考情報>

7 月 30 日まで開催中の展示会「自動車技術展: 人とくるまのテクノロジー展 2021 オンライン」(<https://aee.expo-info.jsae.or.jp/ja/online/>) (主催: 公益社団法人 自動車技術会)で「AD/ADAS 試験対応シャシダイナモメータ」をご紹介しますので、ぜひ同展示会弊社展示ページもご覧ください。
(上記サイトにログイン→出展社/製品検索で「TMEiC」で検索)

報道関係からのお問い合わせ先

東芝三菱電機産業システム株式会社 経営企画本部 ブランド企画グループ <https://www.tmeic.co.jp/>

〒104-0031 東京都中央区京橋3-1-1 東京スクエアガーデン Tel: 03-3277-4319 Fax: 03-3277-4578

TMEIC(ティーマイク)は、社会を支える基盤である「ものづくり」の現場ニーズにお応えするために、社会の発展と美しい地球環境とを調和させる産業システムインテグレータとして、「産業」「社会」「環境」の未来を常に見据えています。工場・プラントにおいて原動力となっている回転機、電力を変換・制御するパワーエレクトロニクス、そしてプラント全体を計画し実現するエンジニアリング、これらの技術をコアに、ものづくりと環境マネジメントに最先端の技術で貢献していきます。